

下野市子ども・子育て会議 議事録

審議会等名 令和4年度第1回下野市子ども・子育て会議
日 時 令和4年5月19日（木） 午前10時から11時30分まで
会 場 下野市役所 2階 203会議室
出席者 菅聖子委員、原田いづみ委員、早川陽子委員、高山由紀子委員、
峯雅士委員、竹内康弘委員、猪瀬七重委員、大塚洋子委員、
小谷光子委員、佐間田香委員、藤川智子委員、稲山貴之委員
【欠席委員】大垣玉枝委員、小林勲委員
市側出席者 （事務局）福田健康福祉部長、金田こども福祉課長、
伊澤（雅）こども福祉課課長補佐、伊澤こども福祉課課長補佐、
植野こども福祉課主幹
公開・非公開の別（ 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 ）
傍聴者 0名
報道機関 なし
議事録（概要）作成年月日 令和4年5月20日

1. 開 会

（事務局、金田課長）

令和4年度第1回下野市子ども・子育て会議を開会します。

委員の出席状況ですが、事前に大垣委員、小林委員から欠席との連絡を受けており、また、竹内委員につきましては、少し遅れる旨の連絡を受けております。過半数の委員の出席がありますので、下野市子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定を満たしており、会議が成立することをご報告いたします。

お手元に委員名簿を配布させていただきました。また、第2愛泉幼稚園さんから資料の配布がありましたが、本日の議題では取り扱えませんでしたので、ご了承頂きます。

それでは、次第に基づき、2. 会長あいさつを頂きます。

2. 会長あいさつ

（佐間田会長）おはようございます。本日はお忙しい中、お集まり頂きありがとうございます。本日配布いたしました「子どもの脳と読み聞かせ」についてお話しさせていただきます。本日の会議に出席されて、来てよかったなと思ってもらえるものを持って帰ってもらえたらと思って持ってきました。心理学にも興味があり勉強していた時の文献を引用したのですが、「読み聞かせと脳の活動」読み聞かせは、実際に脳にいいよということがエビデンスとして確立しておりまして、皆様が実施している保育活動は、理論に基づいているもので、自信をもってお願いしますというものになります。研究論文があるのか

なと思って調べたのですが、読み聞かせと脳の関係とか、分析とかに関する論文はたくさんあって、理論づけられているということなので、読み聞かせをしていただきたいなということと、わりとグレーゾーンのお子様が増えている状況ですので、視覚や聴覚が全て鍛えられるということで、ぜひ行っていただきたいと思って情報提供させて頂きました。前日も申し上げましたが、意見に間違いはございませんので、活発な意見をお願いいたします。

3. 会議運営に関する確認事項について

(事務局、金田課長)

人事異動に伴う職員紹介ののち、【3. 会議運営に関する確認事項について説明】

4. 議事

(事務局、金田課長)

では、議事に入りますが、進行につきましては、資料1の下野市子ども・子育て条例第5条第3項の規定に「会長は、子ども・子育て会議を代表し、会務を総理する。」とあります。以降を佐間田会長の進行でお願いします。

(佐間田会長) (1)の「第二期子育て応援しもつけっ子プラン」中間見直しについてを議題といたします。事務局から説明をお願いします。

(事務局、伊澤課長補佐)

【資料No.2に基づき説明】

(佐間田会長) 事務局の説明が終わりました。この件につきまして、ご質問がありましたらお願いします。

(猪瀬委員) 事前に資料を頂き読ませて頂きました。今回、今のお話ですと、これから見直し案を練っていくということなのですが、以前頂きました令和2年度点検・評価報告書のところからですが、確保の実績ということで今回のしもつけっ子プランの101ページなのですが、教育保育一覧という欄がございまして、量の見込み、確保の内容が令和2年度から令和6年度までが記載されております。令和2年度の実績を見ますと、1号認定の満3歳から5歳児までは715名、2号認定の3から5歳児は899名、3号認定の1から2歳児は603名、0歳児は172名というのが前回頂いた報告書で読み取ることができました。これを見させて頂いて、令和6年度までに達成すべき人数は、下野市はずいぶん頑張っているんだなと思って、とても栃木県の中でもうまい具合にいったるんじゃないかなと思ったんですけども、これも再度見直しということの確認でよろしいですか。

(事務局、伊澤課長補佐)

先ほど委員さんの方からお話のありました、教育・保育の量の見込みと確保の内容についてですが、令和2年度の実績について昨年度ご報告させていただきましたが、今年度、令和3年度の量の見込み、確保の内容の実績の方を確定することになります。今後になりますが、こちらにつきましても、県の示す算出方法等を参考にしながら、作成いたしまして、こちらの子ども・子育て会議において委員の皆様のご意見を頂きながら作成することになりますので、よろしく願いいたします。

(峯委員)

先ほどしもつけっ子プランの中間見直しのことについてお話を聞きました。3つ確認します。先ほど説明して頂きましたが、再度、令和4年5月県からの中間見直しの説明、というのは、中間見直しというのは県主導で行うものなのか。県主導だとしたら、他の市町村はどうやって行うか聞きたいです。2つ目です。比較した結果、中間見直しは不要という結論になる可能性もあるという認識でよろしいでしょうか。3つ目です。今後のスケジュールのタイミングで比較対象の数値を提出されると思いますが、それはいつ頃になりますか。この3つをお願いします。

(事務局、伊澤課長補佐)

峯委員さんからのご質問にお答えいたします。まず、1点目の令和4年の5月の時点の中間見直しについて県主導で行っていくのかという質問ですが、令和4年の4月に入りましてすぐ、内閣府の方から中間見直しをするのかどうかという調査がまずありました。その中で、基本的には見直しを行うのですが、コロナ禍の状況で数値が正しいのか不安であるという市町村にあたっては、見直しについては次年度以降に持ち越すことを検討できるという記載がございました。他の市町村の動向につきましては、確認しておりませんが、下野市といたしましては、今年度、見直しについて取り組むということでご報告をさせていただきました。また、内閣府からは基本的には行うということで通知がきておりますので、他の市町村について確認はしておりませんが、基本的には行うという通知がございましたので、こちらについては取り組んでまいりたいと思います。2点目の比較した結果について見直しが不要となった場合には数値はそのままですかという質問ですが、こちらにつきましては、まだ、見直しはしておりませんので、不確定なことなので、数値を見直しするかしないかということについては、その調査した結果を確認した上で委員さんの方にご提示させて頂くものですが、必ずしも見直すというものではないということもあるということでご説明させていただきました。3点目の数値の提出見込みについてであります。県の方も、国の方から中間年の見直しについての説明がまだないので、県の方からは、国から説明を受け、県の子ども子育て会議において審議してからヒアリングを行うこととなりますが、まだ、県の方から説明についての情報はありません。県の示され

ている今後のスケジュールを基にスケジュールをお示しさせていただきましたが、今後のスケジュールにおきましては、県の方で行う市町担当ヒアリングや、県の子ども・子育て会議等のスケジュールによっては、ずれ込むこともご了承していただければと思います。

(猪瀬委員) 要望なんですけど、今後の中間見直しの時に、下野市に入園しているお子さん、各園での区分ごとの今現在の人数を教えてくださいませんか。今日ではなく、今度の見直しの時に、現在の入園されている人数がどれくらいいるのかを教えてくださいと、比較するのにいいのではないかと思いますので、ぜひ、この号に値するお子さんの数を教えていただきたいと思います。

(事務局、植野主幹)
はい。ご用意いたします。

(佐間田会長) それでは、議事、「第二期子育て応援しもつけっ子プラン」中間見直しについては、資料2にあるスケジュールに基づき、進めてまいりたいと思います。続きまして、5の報告に入ります。(1)薬師寺保育園の移転・整備状況について、事務局から報告をお願いします。

(事務局、植野主幹)
【資料3に基づき説明】

(佐間田会長) 事務局の説明がございました。この資料つきまして、何かご質問がありましたらお願いします。

(峯委員) 潜在的児童数、これが以前あったから石橋に分園を作ったんですね。0歳児から2歳児を対象で分園を作ったんですよ。分園作ったから薬師寺保育園の定員を増やす必要があるのかな。あと、今回、2名から12名に増やしてありますが、途中入園を断った人数を見込んだと書いてありますが、これは、0歳児が10名ということによろしいですか。だから0歳児を2名から12名に増やしたのかと。全員0歳児だったのか確認をお願いします。下野市全体で、令和2年度潜在的待機児童数30名ですが、これは0歳児のみの数ですか。0歳児から5歳児までのトータルした数なのか。教えてくださいと思います。

(事務局、植野主幹)
峯委員さんからのご質問にお答えいたします。石橋にできました分園についてですが、分園を開園したから薬師寺保育園の定員を増やすのは必要ないというご質問ですが、待機児童の解消の一部として分園を建てたということなんですけど、薬師寺保育園と系列の保育園の断っていた分を全部まかなえると

いうわけではありませので、市全体の待機児童の数を賄えるわけではありませので、保育園の定員を10名増やしたということでありませ。0歳児定員を2名から12名に増やしたことについては、薬師寺保育園と系列の保育園の年度途中の入園をお断りしていた人数を見込んで設定したものになります。

(峯委員) それは、0歳児ってことでいいですか。

(事務局、植野主幹)

はい。そうです。0歳児になります。
30名については、0歳児の潜在的待機児童、令和2年度末の数になります。

(峯委員) わかりませ。あと、単純にこの資料3は誰が作成したんですか。ヒアリングして内木会が作ったんですか。ヒアリングして作ったんですか。事務局が作ったんですか。

(事務局、植野主幹)

事務局が作成したませ。

(峯委員) ヒアリングして作ったんですか。

(事務局、植野主幹)

今までの結果で作成したませ、もちろん、ヒアリングをして、いろんな指導を基に作成したませ。

(峯委員) 内木会は、この書類を見ませか

(事務局、植野主幹)

内木会も見ませ。

(稲山委員) 話の続きになってしまませが、待機児童30名いるので受入数を増やしたというのは分かりますが、単純に引き算したら足りないじやないんですか。市として、何か考えているのかお聞かせください。

(事務局、植野主幹)

ご質問にお答えいたませ。薬師寺保育園の整備で全体の待機児童をまかなえないと思ませので、各施設で整備等、保育士さんを増やしていただくように、0、1歳児、低年齢児の受け入れ数を増やしていきたいと考えておませ。

(稲山委員) 具体的な取組はされているのでしょうか。

(事務局、植野主幹)

具体的にというか、各施設にお願いをしていく形になりますが、低年齢児は、保育士さんの数が必要になってしまいますので、その確保をして頂いて、低年齢児の定員を増やすよう整備したい場合にはご相談して頂くということをお願いしてします。

(稲山委員) わかりました。

(猪瀬委員) うちの保育園は、利用定員が、今年度は75名で、今現在、0歳児は2名になります。その2名も下野市のお子さんはいません。他市町村、宇都宮市と壬生の方の2名のお子さんが入園しております。今、お話をお聞きしていますと、やはり、保護者の方の第1希望を優先して入園していると思います。入園希望には、第1希望から第7希望まで書く欄があるんですけども、うちの保育園が選ばれなかったということだと思ってしまうんですけども、その調整っていうのは、今後内木会だけに頼ることなく、他の園でも入園可能ですよという働きかけをするっていうのはどうなんでしょうか。お子さんの希望を第一に考える、保護者の方が、この保育園に入れたい、いいわ という園に入れることが一番いいことだと思います。他の保育園もあるんですよという、保育園側の事情としては、お子さんに入って頂きたいわけですし、なかなか運営も難しいというのも正直あります。また、潜在的待機児童ということで希望した園に入れず、他の園に入りました。その入った方は、第1希望では入れなかったけれども、別の園に入りました、その方に入ってからの、この園に入ってよかったわと思うのか、やっぱり第1希望のがよかったわと思うのか、その把握はしてらっしゃるのか、お聞きしたいなと思っております。

(事務局、植野主幹)

猪瀬委員のご質問にお答えいたします。入園申し込みをした際には、第10希望まで保護者の方書いていただけることになっておりますので、全部書く方もいらっしゃるんですけども、特定の園だけ書く方もいらっしゃるのが現状です。第1希望が入れなかった場合には、第2、第3、第4と入園希望の施設に受け入れ可能か問い合わせをしています。特定の園だけを書く方に関しては、そこで終わりになってしまうんですけども、どこの園が空いてますかというご質問があれば、どこが空いていますという案内はしていません。ただ、こちらから、ここはどうですか、というご案内はしておりません。第1希望に入れなかったお子さんが満足しているかどうかというご質問ですが、毎年現況届とかをやって頂きますので、その時に、今の園ではなく、他

の園に行きたいという方は、来年度また、行きたい園を書いていただいていますので、その時に意見は反映できていると思っております。

(早川委員) 保護者の目線からお伺いしたいのですが、先ほどの答弁にございましたが、第1希望に書かれているとか、ここだけという施設を選ばれた方には、他の園をご紹介されないでいるというのは、何なのかお伺いしたくて。保育園に入りたい保護者というのは、やはり仕事があるとか、家庭の事情があるというのが大前提ですので、なぜ、他に空いてる施設があるのならば、それを紹介していただけないのかというのは、保護者からして見るとちょっとなぞなんです。正直。正直、急に保育が必要になった方が、全園を見学することはまず不可能です。でそこで自分が行っていた中で選ぶというのが大前提となってくるわけです。そうなった時に、見られない施設でも、こういう良さがあるんだよということをお伝えしていただければ、少しでもそれが、情報として入ってくるんですね。それは、知らない保護者に対しては、とても貴重なものだと私は思っているんです。第1希望を出しました、でもここは無理です、で終わらせてしまったら、どうしよう、うちの子どこに入れようという悩みしなくて、正直そうになると、市に対しての信頼関係って、申し訳ないんですけども、生まれてくるんでしょうか。例えば、そこで市の職員の方がすごく親身に他の園を紹介していただけたら、その人の人生や子どもの未来が変わってくるのかなと私は思っているんで、なぜ、ちょっと勧めないのかなということをお伺いしたいです。

(事務局、植野主幹)

今のご質問にお答えしたいと思います。特定の園だけを紹介するというのは、ちょっと偏りができてしまうことかがあって、積極的には行っていないところではあるんですけども、保護者の方と話す段階で、困っているという状況があれば、一覧表を見せて他の園についてもご案内はしていますし、今後、早川委員さんのご意見も頂きましたので、保護者の目線に立って、色々お話をお聞きして紹介していきたいと思えます。

(早川委員) ありがとうございます。今のご返答ですごく安心いたしました。薬師寺保育園さんについてお聞きしたいんですけども、いつも定員さん、ここに書いてある隠れ待機児童は、薬師寺保育園さんだけの隠れ待機児童なんですか。それとも、他の園にも入りたいけれども入れないという方の全部を含めた数なんですか。

(事務局、植野主幹)

はい、お答えいたします。今回の全体的待機児童を見込んだというのは、薬師寺保育園と系列園の数なので、他の園の全体的待機児童を見込んだわけはありません。市全体の待機児童の一部を解消できればということで定員の

方を増やすということになります。

(早川委員) その方達は、どうしても薬師寺保育園に入れたいということですね。他の園でも空はあるということでも。

(事務局、植野主幹)

はい。ここの園に入れたい、教育方針がいいとか、勤務場所とか自分の家の関係もあると思いますが、やはり、ここだけがいいという方もいらっしゃるというのが現状です。

(早川委員) 薬師寺保育園の新設されるところの開園時期が、令和4年10月頃予定となっておりますが、前回では9月、その前は4月とありましたが、これだけどんどん延期されているという、もし可能ならば1年とかもっと余裕を持って開設した方がよかったのではないかと思うんですね。こうなってくると、例えば、変な話、10月に建てばいい方ですけども、10月を超えてしまった場合、今の年長さんは全く思い入れのない施設での卒園を余儀なくされるというところにあたっては、園児や保護者の気持ちっていうのには、寄り添って頂いているのかな、ちょっと疑問がございまして、やはり保護者の立場からしてみたら、思い出のある場所での卒園がやっぱり望ましいのではないのかなと思うので、もし、今後もどんどん開園時期が遅れていくのであれば、そういうことも見通してもいいのかなと思うのですけれども。その辺は、市役所や薬師寺さんはどうお考えなのかなと思うので、お聞きしていいですか。

(事務局、植野主幹)

お答えいたします。内木さんの工程表によりますと、9月20日引き渡しで、10月開園というのは、今のところの予定となっておりますので、10月開園は、予定です。内木会としても、新しい施設で、年長さん、半年だけですけれど、過ごさせてあげたいという思いもありますので、それに向けて進めているところであります。

(早川委員) わかりました。では、10月というのは決定なんですね。

(事務局、植野主幹)

今のところ、工事の状況では、9月20日引き渡し予定となっておりますので、10月開園を目指しているところです。

(早川委員) わかりました。ありがとうございます。

(事務局、植野主幹)

内木会には、報告、確認はしていますので、今後遅れるようであれば、検討していくことになると思いますが、今のところ、10月開園ということでご了承ください。

(小谷委員) 確認なんですけど、1番のところに、民営化の場合、10年以内に建替えを実施するということなんですけれど、おそらく、都道府県や市町村によっては、その民営化として受けたところの建物を解体し、その土地で建てるという認識でいると思うんですが、建替える場合に、他の土地を探してそこに移っていくっていうのは、下野市はそういう方針でやってるということによろしいんでしょうか。今後、民営化ということでまたいくつか出てくる時に、そういったことが起きるのかどうか。本来ならば、受けた場所の建物が老朽化していますし、そこを解体して、その場所で建てるということが前提であったとしたら、2番の、台風だとかいろんなことがあったので、仕方ありません、どうぞ、という流れなのか、そこがいつもハテナマークですので、確認です。あとその利用定員なんですけれども、協議はいつ、こういった定員を変えるということに関しての協議がされたのか、その協議に当たっての協議書があるという風に聞いておりますので、その協議書っていうのがあるのか確認です。あと、それから、薬師寺さんでなければダメという、薬師寺さんの教育方針がいいのでここがいいという理由で定員を変更していくというお答えをされていたんですけれども、人気がない園で定員を増やすという場合に、却下されてしまうのでしょうか。その辺の回答の内容が腑に落ちない。人気があれば、どんどん定員を増やしていいというみたいなことになり、人気がないから、定員増やそうとしてもダメですよ、という判断で認可定員が決められていくのかな、と、今の質疑で感じられました。むつみ学園も今年2月に定員を変えるということで、メールで返事を出しているんですね。たまたま担当の方が変わられたということもあるんですが、協議書があるので、協議書を提出していただかないとそれはできませんというお答えが、ここ2、3日前にあった出来事なんですけれども、協議書を出さなければいけないという認識がなかったので、定員を変更するということには至らなかったんですけれども、今の質疑の中で、そんなことの内容でいいのかなと疑問に思いました。あくまでも意見ということなので、1番目の質問にだけお答えしていただければと思います。

(事務局、植野主幹)

お答えします。10年以内に建替えするということは、協議書の方には書いてあるんですけれども、場所については、現在地に建替えするというのは決まっておりますので、移転して建替えするのも禁じるとは書いてありません。あと、認可定員の件ですが、認可定員については、市の方へ提出して頂いて、県の方に変更する場合には出す運びとなっております。それは、年に

一度やっていると思うのですが、利用定員の方は、利用の実績や今後の見込みを踏まえて、変更する際は、市の方と協議して頂いて、変更する運びとなります。利用定員は、秋頃に入園審査を施設の方とやっていると思うのですが、その際に、利用定員の確認をしておりますので、変更したい、来年は少し増やしたいということであれば、話していただければ、数字の方は変えさせて頂きますので、よろしくお願いたします。

(峯委員) 改めて、潜在的児童数 30 名、0 歳児ということによかったんですね。

(事務局、植野主幹)

はい、そうです。0 歳児です。

(峯委員) ご存じだと思うんですけども、県の方に報告もしていると思われま。4 月と 10 月。待機児童に参入しない数というのが、潜在的児童ということによろしいですか。

(事務局、植野主幹)

はい。その通りです。

(峯委員) 4 月の県の方に報告しているのが、4 月 1 日。これ、令和 2 年ですよ。潜在的が 30 名って書いてあるんですけど、ホームページ、3 名ですね、下野市は。潜在的待機児童、10 月 1 日現在が、17 名。30 名というのは、どこからでてきたというのか、ということとですね、誤った報告を県にしたのかということを確認したいです。お願いします。

(事務局、植野主幹)

お答えします。30 名は、令和 3 年 3 月現在の数になります。報告に関しては、確認させて頂きたいと思ひます。

(峯委員) ちなみに、令和 3 年 4 月 1 日現在は、2 名ということで県に報告してあります。10 月 1 日現在は、4 名ということで県に報告してあるのが、ホームページに掲載されています。以上です。

(事務局、植野主幹)

待機児童は、年度末になってくると増えてくるのが実状だと思いますので、年度が変われば少なくなるのが必然だと思いますので。

(峯委員) はい。そういう答えが返ってくると思ってました。大丈夫です。

(原田委員) 先ほどのご質問で、潜在的待機児というのがあったんですけども、わかる

範囲でもし数値が教えて頂ければと思ひまして。0歳児が30名ということだったんですが、こちらの中で、第1希望しか書かなかった方がどれくらいいるのかご存じでしたら教えてください。ここしか、っていうか、ご兄弟がいるから上の子が入っているからここでなければいけないとか、職場に近いここじゃないと絶対ダメという何か理由はあると思うのですが、第1希望しか書かなかったという人があれば、数値をお願いします。

(事務局、植野主幹)

第1希望だけかどうかは把握しておりませんので、今はお答えできません。申し訳ございません。

(原田委員) ありがとうございます。

(早川委員) ちょっと疑問に思ったので、お伺いしたいのですが、毎回、薬師寺さん、資料を見て私たちが一生懸命答弁をして、事務局が返答して頂いてます。その時に、例えば今のもそうなんですが、聞いて、正確な返事が返ってこないと場合が多いかなって思ひまして、ここに、傍聴人の席でも何でもいいんですけど、薬師寺さんを、薬師寺の方に来ていただくのは不可能なんでしょうか。どうしても、私達から事務局、事務局から薬師寺、薬師寺から返ってきたのを聞く、っていう流れだと、どうしてもスムーズにいかないのかなと思ひまして。そういうことってできないものなんですか。

(事務局、金田課長)

会議の中では、必要に応じて説明を求めて、できると書いてありますので、必要な時には検討したいと思ひます。

(早川委員) ありがとうございます。前から気になっておりまして、保育士不足が騒がれていると思うんですね。0歳、1歳児に対しての保育士の数って、とても人数が必要になることなんですが、なかなか、保育士の需要に対して供給がないという中で、結構、薬師寺保育園さん、薬師寺幼稚園さんって、求人が出ていることが多いんです。保護者の中でも話題になることが多くって、それなのに、人数が一番かかる0歳児をそんなにたくさん、12名も見込んで本当に保育士の数って足りてるんですか。確保しているからこそ、これだけの数を提示されているんですかね。そこはいかがでしょうか。建ってこれだけ設けました、でも保育士がいませんっていうのでは、ひどい話なのかなと思ひまして。関係なかったらすみませんが、お返事して頂けたらと思ひます。

(事務局、植野主幹)

内木会の方で、職員の数は確保した上で、やっているはずですよ。0歳児3名につき、保育士1名というのが決まっていますので、0歳児を受け入れます

と言っていて、保育士が足りないということはありませんので、内木会の方で、保育士を確保した上で、募集とかをしていると思います。

(早川委員) はい、わかりました。

(佐間田会長) では、他の報告もありますので、次に行きたいと思います。

が、ここで、私の方からお願いというか、意見なんです、私個人的に転居などがありまして、子どもの園を3園ほど変わっておりまして、皆さん、特色のある園でしたが、保育士の先生は、どなたも本当に親身に保育してくださって、どこの園にも悪い印象はございません。ですので、待機児童、ここ第1希望、そこしか書いていなかった場合に、保育士の先生は、どこに行っても同じように愛情注いでくださるので、どこに行っても大丈夫です、ってひと言と、どうしても嫌だった時に途中で変えることもできることを、ひと言添えることで、0歳児のお母さん、ママの印象は、変わると思いますので、窓口でちょっと、ひと言添えていただけるといいなと思います。

では、次に進めたいと思います。

では続きまして、

(2) 石橋地区の児童館移転につきまして、事務局から報告をお願いします。

(事務局、伊澤課長補佐)

【資料No.4に基づき説明】

(佐間田会長) ただ今の説明について、何かご質問、ご意見ありますでしょうか。

(早川委員) こどもの広場いしばしがどこにあるか分からなかったんですけども、今あるいしばしから、新しくできる施設までの距離はおおよそどれくらいありますか。

(事務局、伊澤課長補佐)

直線距離で、500メートルくらいです。

(早川委員) 通っている子どもたちが通える範囲なのかなと思って質問しました。ありがとうございます。

(佐間田会長) 私から一点。複合施設なんです、公民館や、民間ドラッグストアと一緒に複合施設になると伺っております。児童館の休館日が、日曜・祝日ということで働く保育士のご都合もあると思いますが、複合施設のイメージからすると、ドラッグストアがあつて、公民館があつて、遊ぶ場所があつて、ということを見ると、日曜日を開館日にした方が、人は集うし、例えば、大人が

公民館で何かやっている間、保育可能な保護者の方が児童館で子どもを見ている、そこで保育士の先生がいたら、育児相談ができる、保護者を支えるという面では、日曜が空いていたらいいなと思います。なかなか難しいこととは思いますが、意見としてお聞きいただければと思います。

(佐間田会長) では、6.その他になります。事務局何かありますか。

【事務局で事務連絡】

(佐間田会長) 何か皆様からご意見ございますか。では、皆様から一言ずつ頂いてもいいですか。皆様会議に参加していただきましたが、まだ発言なさっていない方もいらっしゃいますので、皆さん、お一人ずつ、ご意見を頂きたく、意見交換も含めて、せつかく保育の現場の方がいらっしゃいますから、頂戴できたらと思います。お名前と、ご意見を頂けたら幸いです。

(菅委員) 私の方からは、3つほど提案がございます。まず一つ目ですが、先ほど各園の空状況等の話がでたと思いますが小山市等では、ホームページではどれくらいどの園が空いているとか一覧で見えるような状況になっています。なので下野市のホームページでも、そういった準備を整えたいかがでしょうか。二点目は、先ほどから薬師寺さんの話が色々あるんですけども、箱もの設置というのはかなり充足されてきているのかな、下野市は、と思っておりますので、この次は、本当に保育の質の向上という部分で、幼少期に子ども達が受けた保育が子どもの人格形成に大きな影響を与えと言われております。それに伴いまして、いま現在、下野市内の小中学校で、不登校の子であったり、学校に通えないお子さんたちっていうのが、何人いるとか、こども福祉課さんの方ではなく、教育委員会の仕事になると思いますが、そういったことを保育園や幼児施設等に伝えてあげて、それを保育の基盤として、考えていって頂いたらいいのかなと思いました。三つ目ですが、下野市内は、第三者評価っていうのはどういった状況なんでしょうか。皆様受けていらっしゃいますか。そこら辺も市の方から回答頂けたらと思っております。

(佐間田会長) ありがとうございます。事務局お答えすることができますか。

(事務局、植野主幹)

確認して、後日回答でよろしいですか。

(佐間田会長) ありがとうございます。

(原田委員) 会長さんが先ほど、児童館のことでお話があったと思うんですけど、私も同

意見で、他の児童館とのバランスがあると思うんですけども、せっかく複合施設といういい機会になるので、可能であれば、日曜日も開けて頂けるといいのかなというところは思っています。ただ、もう近々オープンすることなので、急についていうのは、もう決まったことだと思うのですが、何か見直しをする機会があれば、オープンした後に利用した方から日曜日も開けほしいよねという意見があれば、その辺は柔軟に、今後将来的に対応して頂けるのであればいいのかなと思います。

(早川委員) 私もその意見にすごく賛同しています。やはり、平日仕事をしておりまして、なかなか児童館に行けなくて、休みなどにちょっと行けると子ども達もすごくうれしいみたいなので、土日に関いてくれてたらいいなと思います。やはり、働く側の人としてはすごく大変だとは思いますが、例えば、保育士さんでなくても、保育の経験があった方などがいてくれば、育児相談もできますし、やはり様々な人の話を聞くっていうことは、育児にとって、結構、育児って一人で抱えこんでしまったり、家庭内でっていうことが多いので、そういったところで意見を頂けるのはかなり貴重ななと思っております。結構、保護者としても知らないことがたくさんありまして、こういう機会、この会議に参加させて頂いていることは、私にとってもすごく貴重な経験となっております。今回は色々な園長先生とかも多いので、いつも意見を聴かせて頂いて、すごく参考になっております。今後もよろしくお願いいたします。

(高山委員) 今回、初めてこちらに参加させて頂いたんですけども、石橋地区なんですけど、意外と下野市全体のことが全く知らなくて、薬師寺さんのこととかも、今回初めて知ったくらいで、未知なことがいっぱいあったので、今日参加させて頂いてありがたかったです。あと、保育園の選び方なんですけれども、個人的な意見なんですけど、仕事上の、自分の、親の都合のいい場所を選びがちで、私の場合はグリム保育園一択で選ばさせて頂いて、自宅から近いのと、でも、やっぱり、会長さんが言われたように、一言、後押しという言葉が窓口であったりすると、保護者としては心強いかなと思いますので、保護者の目線に立った意見等をこれから頂けるとありがたく思います。ありがとうございます。

(峯委員) 今日、色々質問させて頂きまして、ありがとうございました。次回、また色々勉強して質問したいと思います。よろしくお願いします。

(竹内委員) 細かくお子さん達の状況をよく分かってない部分もありますけれども、こうやって会議に参加させて頂いて、例えば先ほどの他の空き状況を知りたいとかは簡単にできるのではないのかなと。小山市、実際にやっています。私も小山市で共働きで出していましたけれども、もっとそういうの見える化してい

と思うんですね。そういうのは、役所の方、事務局としては、簡単にできることだし、市民に対して、どうサポートするかっていうのは大事だと思いますので、当然かなと思います。あと、終始細かいこと、例えば窓口でもこういったらどうかとか、色んな提案があると思うので、大事なのは、事務局様の方から、やりますということは、こういった場ではたくさん聞くんですけども、後で、こういう風にやりましたっていう、フィードバックをぜひもらいたいというか、もらっといた方がいいと思います。例えば、こういうチラシを作って必ず渡してますとか、それをしないと、私は事務局みたいなもので、企業はあまり濁してしまう部分が正直ありますので、そういうフィードバックをきちんと後でもいいから、こういうことをしましたというのをもらおうといいのかなと思います。こういう会議っていうのは、決定権はないと思いますけれども、やはり、市民を代表して来ているということですので、どんどん違う意見とかをぶつけるべきだと、ただ座っているだけではなく、やはりぶつけてやるべきだと思いますので、どんどんやって頂いていいんじゃないかなと思います。以上です。

(猪瀬委員) 今日はありがとうございました。この「子育て応援しもつけっ子プラン、みんな笑顔で、地域の宝を育てるために」この言葉、すごく大好きです。各保育施設、こども園等、皆さんほんとに子どもに寄り添い、保護者に寄り添いみんな頑張っていると思います。うちもその一つなんですけれども、やはり、下野市として子どもをどの様に育てていったらいいのか、どの様に育ててもらいたいのかということ、もうちょっと詳しく、統一できたらなあ、それに向かって各園、こういう風に頑張っていくますっていう風にできたらいいのかなって。これは、要望っていうか、私の希望なんですけれども。下野市で、そういう風に把握して頂ければ、統一してやっていけるんじゃないかなと思います。これからもよろしくお願いいたします。

(大塚委員) この会議に出る度に、私は、現場サイドの人間ですので、保育について、とても見直しをさせて頂く機会になっています。現場としては、お子さんの待機児童解消っていうのはものすごく大事なことなんですけれども、それに対しての利用定員、認可定員が先ほど出てきたかと思うんですが、グリム保育園に対しては、たぶん室内の面積上、15名までは受け入れできるかと思えます。ですが、私の方で、秋口の会議の時に、やはり受け入れできる人数と、実際にお預かりして、子ども達はその満杯の人数、数字上はそこなんですけれども、子ども達が安定して生活が送れるかって言ったら、そこがまた数字と違うところで。ですので、低めに利用定員をお願いしている経緯っていうのもあります。正直なところあります。ここにいらっしゃる園長先生方も、たぶん、そういったところを見込んで増減っていうところはされているのではないかなと思うので、やっぱり、何がっていうよりも、子ども達が本当に一日、長い子は12時間、保育園で過ごすことになるので、どれだ

け安定した生活が送れるかっていうところを、そのどういうところに予算をかけたらいいかっていうところ、どういったところを整備したらいいのかっていうところを、会議で話し合えたらいいのかなって思っております。先ほど、PRのことも出てきたんですけれども、私は公立園にいるので、今、どこでもICT化っていうのが言われていると思うのですが、やはり、スタートがちょっと遅いかなという風に思っています。研修等も先ほど保育の質っていうところでご指摘がありましたが、コロナ禍を機会にICT化が進んでいます。ですが、私どもの園ではZoom機能だったり、そういったことが庁舎に来れば出来るんですけれども、園での研修体制っていうのも難しく、そういうところを、私達は、今度はこども福祉課さんの方に提案をして整備を急いで下さい、ということでICT化が整うことで、たぶん、PRっていうのが各園できるのではないのかと思うんです。保育園でも、公立園でも園庭開放っていうところをさせて頂いて、庁舎の窓口と各児童館、市民センター、ホームページ等でご案内はさせて頂いているんですが、やはり、それだけでは足りないのかなっていうのは、昨日、県の研修に出て、県でも予算取りをしているということですので、それを今度私達がこども福祉課の方に、保育園でも、公立園でもそういう整備を急いでください、そのことで、もっとPRができますっていうことを伝えていかなければいけないのかなと実感したところでした。やっぱり、子ども達のより良い方向のお預かりができる環境整備っていうのを、私たち現場は心がけて保育をしていきたいと思いません。今日はありがとうございました。

(小谷委員) 先ほど、第三者評価について出たんですけれども、ちょっと確認不足なんですけれども、そういった費用の補助というものが組まれているのどうか、現場に戻って確認なんですけれども、第三者評価をするのに、かなりの高額な費用がかかるので、そういった予算、補助があるかどうかということの確認をお願いしたいと思います。それから、先ほどの一つの園にどうしても行きたいというのがあるとは思いますが、一つの園だけがうまくいくことはあり得ない、やはり長い将来を見た時に、こども達は社会で生きていくということになると、やっぱり繋がっているということになると思います。下野市の中にある保育園、幼稚園、こども園含めて、バランスよく、どこの園に行ってもいいというような状況を作れるのが行政サイドしかないと思っています。とても大変なお仕事かなと思いますけれども、長い将来を思った時に、一つの園だけがよくてそこから出ましたっていうことが将来通用しないので、やはりいろんな園があることのバランス作りに、ぜひ、お願いしたいと思います。薬師寺さんの方でこの110人の定員が、認可定員ができたから他はいいでしょうということにはならないように、ぜひ、それだけをお願いしたいかなと思います。いつも本当に色々と支援して頂いてありがとうございます。以上です。

(藤川委員) 私達、看護職って働いていると、産休明けとかそういう時に預ける所がないのよと言ってなかなか働けないっていう職員がいます、下野市は、入りたい時にすぐ入れるっていう状態があるので、下野市に引越しておいでと私も言ったりすることがあるんですけども、その辺はすごく充実しているなと思うんですが、やはり、こういった会議の時に、実際の現在の生の数字が分からないと、私たちも議論ができないかなと思うので、小山市なんかは、ホームページに掲載されているっていうことがあるので、下野市の方もこういったことができたなら、私達も参考にできるのかなと思いました。また、保育の質っていうのも同じように、皆さんよくされていると思うんですけども、どういうところでお母さん方が選んでいるのかなというのを知って、同じにするとか、また、必要なかなと思いました。児童館のことなんですけど、実際に赤ちゃんを産んで育てる、産んだばかりのお母さん達を見てると、今ほんとに子育ての仕方が分からないんです。抱っここの仕方も分からなくてどうしようというお母さんがいて、ほんとに赤ちゃんに何しゃべったらいいの、というみたいな状態で、こういって声かけてあげるんだよ、根本のところから教えていかないと、今はお母さんになれないんです。なので、児童館なんか、育っていく過程の中で、親子で遊ぶとか、そういう時間を作ってあげたのがいいかなと思うので、やっぱり、日曜日とか祝日の運営っていうのを希望したいなと思います。雇用だとかすごく、人と人とを育てるっていうのが、そちらの方が、親育てというのがすごく難しいからとすごく思います。ぜひ、保育園とか幼稚園とかで、子どもとの会話とか、具体的なアドリブとかほんと分からなくてどうしようという人がいっぱいいて、そういうことでグレーゾーンの子が多くなっているのか、そういうのがあるかなと思いますので、幼稚園や保育園からお母さんに色々、子育てヒントとか安心してできるような所でもあってほしいと思うので、何かこういう会議の中で情報提供できることがあればと思っています。ありがとうございました。

(稲山委員) 本日は、こういった時間を作って頂いてありがとうございました。法律で決められていることとはいえ、こういう形で意見を聴くという場を設けて頂いている事務局の方に感謝しなければいけないのかなと思います。やはり、私も40人、部下がいるんですけども、臭いものには蓋をするっていうんじゃないんですが、都合の悪い意見というのは極力聞きたくないというのが本音としてあるんですけども、そういった話も、ちゃんと忌憚なくご意見させて頂いて、そして回答して頂いているということに関しては感謝しなければいけないなと思っております。先ほど、竹内委員の方からおっしゃった、せっかくこうしてお互い良くしようと思って話させて頂いているので、こちらが言ったものに対しての、預かって頂いたものに関しての、何かしらフィードバックして頂けると、より会議がもっと深堀されていく、内容も話も深堀されていくと思うので、双方のためにいいのかなと思いました。あと、余談なんですけど、私もあと2、3年すると、全国転勤の仕事なので、2年、3

年で転勤するんですね。子どもが3人いて、保育園預けるのってすごく大変なんですよ。異動する度に、真っ先に何を探すかっていうと保育園の行先を探すっていうところから入るんです。どこに何があるか、どこに空きがあるかというのが分かると、空いているところで、なおかつ近いところで、っていう選び方もできますし、たぶん市のホームページとかで、保育園について、こんな保育園がありますよ、こんないいところありますよって打ち出されていると思うんですが、市のホームページでリンク先を追加するとか、市の保育園でもこういった保育園、こういったところが魅力ですよ、と見えるようにしてあげると、もっと異動してくる人とかも選びやすくなるのかなって思います。また、こういった形で会議があれば参加したいと思いますので、よろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

(佐間田会長) ありがとうございました。

(健康福祉部長、福田部長)

今日は、お忙しいところ、また、たくさん貴重な意見を頂きまして、ありがとうございます。先ほども皆様方からご意見を頂いた中でも、教育保育施設の質の向上に関しましては、市としても重要性を認識しているところであります。いかに質の向上を図っていくかということに関しましては、各施設の方、保護者の方々のご意見を聞きながら、努めていければと思っております。それと、保育の入園の関係に関しましては、担当の方でも、窓口において、これまでも保護者目線で対応をしているところでありますが、今後も、さらに意識して対応をしていきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。また、次回の会議では、計画の見直し等についても、色々と意見を頂きたいと思っておりますので、今後とも引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(竹内委員) さっきの薬師寺さん呼びたいというのは、条例の6条に書いてあるんですけど、これは、本人同意がないと無理だと思います。これは、どうするんですか。呼ぶんですか。私は呼んでもいいと思うんですけど。

(健康福祉部長、福田部長)

お配りしている「下野市子ども・子育て会議条例」の第6条の中の第4項ですが、「審議のために必要があると認めるときは、関係者の出席を求めて意見若しくは説明を聴くことができる」とあります。これに関しましては、委員の皆様のご希望があれば、その関係者の出席はお願いしたいと思っております。

(佐間田会長) 採決でよろしいですか。説明をして頂くため出席を求めることに賛成の方は挙手を願います。過半数を超えます。

(健康福祉部長、福田部長)

それでは、多数の方の希望を頂いたということで、この関係者の出席を求めていきたいと思います。

(佐間田会長) 最後に、皆様に、情報共有ということで、2つだけ。藤川委員さんと同じ医療職ということで、伝えさせて頂ければと思っていて、一つは、保育の質といますか、親育ちがすごく必要かなと思っております。小学校に性教育の授業でお伺いした時に、赤ちゃんが泣いちゃったよ、どうするって子どもに聞いたら、ベビーシッターを呼ぶという答えが出ました。普通は、抱っこするとか、ミルクをあげるとか、おむつを替えるとかという意見が出るんですよ。ベビーシッターを呼ぶって言われたら、それ以上は否定できないんですけど、今、保育の方では、働く親御さんのために園に預けて支援するっていうのは、育児支援になるんですが、園にいる間は、育児をしてもらって、家に帰ったらどう扱ったいいかわからない。これが、虐待された子は、虐待してしまうのと一緒で、親が育児の仕方が分からない、ずっと園で育った子供たちが、大人になって自分が親になった時にどうやって子どもを育てていくんだろうと、未来がどうなるんだろうと不安になりました。園の先生大変だとは思いますが、帰り際でもいいですし、直接的な関わり方、声掛け一つ丁寧にして頂くのも、親育ちなのかなと思いますので、未来の子どもを育てていくことを考えると、現場で親を育てるということを考えていただいたら、ありがたいなと思いました。

最初に読み聞かせのプリントをお渡ししたんですが、コロナ禍にあって、ひとついいことがあって、私は、診療を待っている間等、お子さんを相手にしている際、今までは、おもちゃを使っていたんですが、コロナ禍に入って、感染対策として、おもちゃを使わず、お子さんと話をしたり、手遊びをしたり、読み聞かせをしております。お子さんが興味を示した本を渡すことによって、お子さんがほんとに興味を持つようになりました。読んでもらった本が面白くて、本に興味を持っていただきました。実際に、お母さん方は、本がいいということは承知しているんですが、そんな時間がどこにもなく、その子にあった本を現場の皆さんが提供してくださると、お子さんが興味を持って、それをお子さんがおうちの人に、本屋さんに行きたい、図書館に行きたいと言ってくれば、親は、連れて行くと思うので、ちょっと興味を持ったものを提示してほしいなと思うのと、お母さん方はほんとに毎日忙しいので、読む暇はないです。教育の現場にいくと、情報教育が進んでいて、司書の先生は、本がいいというのですが、情報教育が進む中、どうやって勧めていいかわからないと言っておられるので、幼児期のうちに。園外保育で公園にいけますが、図書館に行ったことがないお母さんもいらっしゃるんで、図書館に行くことで、保護者へつなげることもできると思うので、よろしく願いいたします

以上で、議事を終了したいと思います。活発なご議論、ありがとうございました。

7. 閉 会

(事務局、金田課長)

以上をもちまして、令和4年度第1回下野市子ども・子育て会議を終了いたします。長時間にわたり、ありがとうございました。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためここに署名する。

会 長.....